第52回新しい憲法を作る国民大会

国家緊急事態規定の新設を

東京・四谷

一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

〈社是〉

憲法記念日の5月3日、新しい憲法を作る国民会議（＝自主憲法制定国民会議：清原淳平会長）主催の「第52回新しい憲法を作る国民大会」が東京都新宿区の四谷区民ホールで開催された。第3回「緊急事態宣言」発令による東京都の指示に従い、無観客での開催となった。

国歌斉唱の後、清原淳平会長が「改憲川柳」優秀句を発表し、最優秀作品について講評、続いて「国家緊急事態・宣言の法制度的意義！」と題して次のように講話した。

日本では「緊急事態」だが、外国では「非常事態」という表現で非常時の規定がある。今は新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が出されているが、憲法との関係はどうなのか。

ペストなどの感染症は終わるまでにほぼ3年かかり、100年前のスペイン風邪では、日本でも2200万人が感染し、40万人が亡くなった。そんな場合、感染防止医療側と生活確保商業側の二律背反が生じる。医療側からは外出時のマスク、三密を避ける、不要不急の外出を禁止、商業活動の時間短縮・閉店、換気・アクリル板などの仕切り設置、移動の制約などが求められる。それは経済活動の妨げとなり、旅館・ホテルのキャンセル、営業時間短縮による収入減となり、交通機関も打撃を受ける。医療側は疲弊し、商業側からは赤字で苦しい、政府の対策は遅すぎるという不満が募り、三律背反の事態が発生する。しかし、政府はこの批判と攻撃に対応できないのが実情で、その第一の原因は日本国憲法には諸外国のように「緊急事態対処規定」がないからである。

大陸法系の代表として「ドイツ連邦共和国基本法」を見ると、第1条から第19条までは「基本的人権」及びその内容が掲げられ、第19条で「各基本的人権が制約される場合がある」と規定されている。第10a章「防衛事態」、第115c条以降には緊急事態対処や緊急事態宣言の規定があり、具体的なケースは下位の法律に委任されている。大陸法系の国では「基本的人権」は絶対的な権利であり、それを制約する場合は憲法に制約条項があることが要件で、法律に委任されているのは、戦争・内乱、大震災・大洪水などの自然災害、石油貯蔵基地・原子力発電所などの大爆発、世界的大流行の疫病である。

ところが、太平洋戦争の敗戦後、日本を占領・統治したマッカーサー元帥が置いていった日本国憲法には「基本的人権」は書かれているが、「非常（緊急）事態規定」「同宣言規定」が欠如している。連合国軍による占領下に、米軍が起草し、国会で制定された非独立の「植民地憲法」は、その後、一度も改正されず、今日まで来ているからである。イタリアとドイツは講和条約で独立が認められると、主権国家として陸海空軍を持てるよう憲法を改正し、再軍備した。しかし日本だけは、憲法改正・再軍備をせず、70年経った今でも「占領下統治用憲法」をそのまま用いている。

私は昭和54年に岸信介元総理から「自主憲法」の議員同盟事務局長と国民会議常務理事兼事務局長を委託されて以来、研究を重ね、この点に警鐘を鳴らし、平成3年5月3日の国民大会の日に『独立国の体裁をなしていない日本国憲法』を出版した。日本が独立したというならば、第9条を改正して独立国家の体制を整えるべきだと主張し、「国家緊急事態対処規定」や「国家非常事態宣言」の新設も強調してきた。また、憲法には「基本的人権」は書かれているが、「非常（緊急）事態規定」「同宣言規定」が欠如しているが故に、米軍が起草した憲法には「緊急事態宣言」規定の新設はできず、刑事罰を科すこともできないと述べた。諸外国に明文があるのに、日本国憲法にはない「国家非常（緊急）事態宣言規定」「国家非常（緊急）事態宣言」規定の新設を急ぐべきである。

最後に重田典子国民大会実行委員長が閉会の辞を述べた。

「改憲川柳」優秀作品についての講評をする清原淳平会長＝5月3日、東京都新宿区の四谷区民ホール

閉会の辞を述べる重田典子・大会実行委員長

灯

「まだ幼かったイスラエルをわたしは愛しました。エジプトから彼を呼び出し、わが子とした。

エフライムの腕を支えて歩くことを教えたのは、わたしだ。しかし、わたしが彼らをいやしたことを彼らは知らなかった。わたしは人間の綱、愛のきずなで彼らを導き彼らの顎から軛を取り去り身をかがめて食べさせた。

わたしは激しく心を動かされ、憐れみに胸を焼かれる。わたしは、もはや怒りに燃えることなく エフライムを再び滅ぼすことはしない。わたしは神であり、人間ではない。お前たちのうちにあって聖なる者。怒りをもって臨みはしない。」（ホセア書 11：1、3～4、8～9）

創造主なる方は、人類救済の道筋をつけるためイスラエル民族を選び、厳しく訓練してきた。その方は、厳格なる主人として選民がその命じるところに従うことを強いる。だが時折、慈愛に満ちた親の姿を垣間見せる。預言者の声にそれが漏れ聞こえてくる。神と人との愛の絆を強め、ちかしい関係を築きたいとの願いがそこに見出される。イエスの登場でその方を「父」と呼ぶことが明示された。（1）

伊勢山皇大神宮で創建150年奉祝大祭

コロナ禍終息と横浜の繁栄祈願

神奈川県横浜市

横浜の総鎮守、神奈川県横浜市の伊勢山皇大神宮（阿久津峪司宮司）で5月15日、例祭並びに創建150年奉祝大祭が斎行された。創建150年記念行事として、16日には神輿がみなとみらいを巡行し、臨港パークで流鏑馬神事が奉納された。22日の奉祝大祭（2日目）では、拝殿で神楽舞、デジタル紙芝居、和太鼓和楽器演奏、箏演奏の行事が執り行われた。

15日午前10時、斎主（阿久津峪司宮司）、献幣使（利根康教寒川神社宮司・神奈川県神社庁副庁長）以下祭員が国旗掲揚塔前から参進、祓い所で修祓の儀、斎主、献幣使以下祭員が神楽殿の所定の座に着いた。次に斎主一拝、御扉を開いた後、神饌を供し、神社幣を献じた。祭員奉賛会が初穂を献じた後、斎主が祝詞を奏上した。続いて神社本廳からの幣帛が奉幣され、献幣使が祭詞を奏上した。

2人の巫女が、創建150年の奉祝として創作された新たな祭祀舞「伊勢山の舞」を奉奏。続いて斎主、献幣使が玉串を奉って拝礼し、参列者がそれに続いた。本廳幣・神社幣・奉賛会初穂・神饌が徹せられ、斎主は御扉を閉じ、本座に着いた。斎主一拝し、例祭並びに創建150年奉祝大祭は滞りなく修められた。

阿久津宮司は挨拶で、「昨年が創建150年だったが、緊急事態宣言発出のため奉祝大祭を1年延期した。この1年、神社は大勢の皆様に支えられ、心の拠り所であることを強く感じた。記念事業は本殿の建て替えを中心に進め、伊勢神宮の式年遷宮の後、古社殿の材を授与頂き、横浜市民にも誇り高いものとなった。旧本殿は東日本大震災復興支援の一助として、宮城県石巻市の鹿島御児神社にお譲りし、本殿として完成した。人々の祈りの継承が受け継げられ、ご縁をいただいたことに感謝する。創建時には横浜市民がこぞって祝い、横浜が一つになったと言われる。創建150年は創建時に原点回帰し、歴史と文化を次世代へ継承することを目的に掲げてきた」と述べ、献幣使の利根宮司は「横浜市民の拠り所であり、『関東のお伊勢様』として信仰されている伊勢山皇大神宮が、今後も発展することを祈る」と語った。

創建150年奉祝大祭で初披露された「伊勢山の舞」は、同宮創建100年に際し、奉賛会の総裁であった明治天皇第九皇女の東久邇聡子様が詠まれた和歌に、元宮内庁式部職楽部主席楽長の池邊五郎氏が作曲・作舞したもの。舞を奉奏した巫女の装束は、同宮の再興と発展の立役者である池田正宏前宮司より奉納され、水と桃色のあざやかな意匠は、伊勢山の桜と横浜の海を表現している。

伊勢山皇大神宮の創建は明治3年。当時の横浜は人口が急増していたが、多くは地方からの移住者で、住民同士の繋がりが薄かった。そこで神奈川県は、横浜の象徴、人々の心の拠り所として同宮を創建した。明治4年4月15日に社殿と境内施設が竣工し、正遷宮が執り行われた。伊勢神宮より勧請されたと伝わる古社を再興し、横浜総鎮守として祀るにあたり、神奈川県は5日間にわたる盛大な祭礼を執り行った。その総費用は15万両で、これを聞いた当時の外務卿が「外務省の半年の予算に匹敵する」と驚いたという。

「伊勢山の舞」を奉奏する巫女たち

国旗掲揚塔の前に列する阿久津裕司伊勢山皇大神宮宮司、利根康教寒川神社宮司ら祭員＝5月15日、神奈川県横浜市の伊勢山皇大神宮

社説

信仰が守る地域のSDGs

「それにしても頭ヶ島の未来が気になって仕方がなかねぇ。今いる私で信徒たちは最後になるでしょう。それまでは自分たちができることをやり続けること。無事に献堂百周年を迎えること。私の父に、その報告ばせんといかんけんね」

長崎県南松浦郡新上五島町の頭ヶ島（かしらがしま）にあるユネスコの世界文化遺産、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を構成する「頭ヶ島の集落」に立つカトリック教会、頭ヶ島天主堂を守る高齢の信徒代表の言葉に、涙が出る思いだった。彼の父は、天国にいる。

限界集落の教会

新上五島町にあるカトリック教会29の多くが、いわゆる限界集落に建っている。白浜地区にある頭ヶ島天主堂も、集落はわずか7戸。そこまで減少したのである。世界遺産になったので観光客が増え、町が支援しているが、基本的には住民十数人で教会を守っている。教会を含む人と地域の暮らしをである。近代社会では信仰は個人の内面のこととされるが、ここでは先祖を含む共同体の生き方として継承されている。

同教会の歴史を見ると、明治2年頃にキリシタン迫害を逃れ、上五島・中通島の鯛ノ浦の潜伏キリシタンが、当時、無人島だった頭ヶ島に移住し、明治20年にカトリックに復帰した信徒たちにより初代の聖堂が建設され、大正8年に10年の歳月を費やし、石造りの天主堂が完成、平成13年に国の重要文化財に指定された。平成30年に世界遺産登録が決定した翌年、献堂百周年を迎えたことになる。

石造りにしたのは、近くで良質の砂岩が取れ、地元に優れた建築家と石工たちがいたこと。鉄筋コンクリート製より安価だったが、それでも10年を要したのは、建設費の工面が大変だったから。出稼ぎに出てそれをまかなった島民たちもいた。一般的に寺を維持するには300戸の檀家が必要だとされ、本堂の修復などには数十万円の布施を依頼されることがあるが、それに比べて圧倒的に少人数で、この天主堂は建設、維持されてきた。それを支えたのは島民たちの、長い潜伏キリシタン時代からの信仰である。

今、日本の地域の多くが消滅の危機に瀕している。経済合理性が人々を都市に集め、それを支えていた地方を、何より地域の自然を荒廃させている。未来を展望すると、水源を断たれた川のように、やがて都市も枯れていくのではないか。その前に、人々の心が乾いていく。共同体を形成することで社会を成り立たせてきた日本という国が、立ち枯れしてしまうのである。

それに警告を発したのがコロナ禍ではないかと思う。30億年前から地球上に存在し、人類の進化にも多大な貢献をしてきたウイルスの一種が、人間とのかかわりで変調をきたしたのである。私たちは自然との付き合い方を、根本から見直すよう迫られている。

環境破壊や社会格差の拡大など資本主義の限界が指摘されている中、コロナ禍がSDGs（持続可能な開発目標）の重要性を再認識させている。それは経済社会の在り方を、一人ひとりの生き方から見直そうとするものと言えよう。

150年前、渋沢栄一が論語（道徳）と算盤（経済）を唱えたのは、次世代により良い世界を残すためだったと、子孫の渋沢健コモンズ投信会長は語る。それは父祖たちの信仰を守り続けている五島のカトリック信徒たちに通じる。というか、古くから続く日本の地域社会のほとんどで見られた人々の生き方、営みである。神社や寺がキリスト教の教会に変わったのは、小さな歴史上の変化にすぎない。

共同体の信仰

新上五島町の有川港にあるターミナル「鯨資館」にはクジラのモニュメントと剥製が飾られていた。江戸時代から昭和30年頃まで、当地は捕鯨で栄えたからである。

今も隠れキリシタンが暮らしている平戸市の生月島と同じで、同島の資料館は1階が捕鯨の、2階が隠れキリシタンの展示だった。

暮らしを支える経済は継続が不可欠で、今の世代は次世代の暮らしを考えないといけない。地域の人たちと語り合う中で、持続可能な「地域の真理」を見出し、一人ひとりが責任を果たすことが、今の地方に求められている。それを支えるのが共同体の信仰である。

天地

カトリック教会を訪ねる長崎県新上五島町の旅で、最澄の足跡に出合った。標高439メートルの山王山（古称は御嶽）の頂上に鎮座する雄嶽日枝神社は古くは「山王宮」と呼ばれ、祭神は大己貴神（おおなむちのかみ）▼804年に第16次遣唐使船で入唐した最澄が、帰国後の814年と819年の2回にわたり、福岡の太宰府鎮門山寺に入唐成就のお礼詣りをした際、五島にも足を延ばし、この山王山に登って、比叡山延暦寺の守護神「山王権現」を祭祀したという。雄嶽日枝神社と称号が改められたのは明治4年のことと▼最澄によって山王権現が勧請されると、山頂に三ノ宮、8合目近くに二ノ宮、2合目近くに一ノ宮が祀られるようになる。一ノ宮には古い鳥居があり、岩陰に石祠が祀られている。二ノ宮には岩窟があり、かつては水を湛えていたが、その水が枯渇した際に報賽鏡17枚（平安後期・室町・鎌倉・江戸初期の船載鏡2枚と和鏡15枚）が発見された▼山頂の山王宮は古くから航海時の標識としての役割を果たし、遣唐使が五島列島を寄港地とした際には航海の安全を当山に祈念したと伝えられる▼ちなみに同じ遣唐使船で唐に渡った空海を顕彰する石碑「辞本涯」（本涯を辞す＝日本の最果てを去る）は、唐使船団の最終寄港地とされる五島市三井楽町柏崎の海辺に建立されている。空海入唐の道を探るなか、刻字を揮毫したのは当時、高野山大学教授だった静慈圓・高野山清涼院住職。次回、訪ねてみたい。

宗教新聞社
発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2021

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）
http://www.religion-news.net

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162−0821 東京都新宿区津久戸町 3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円+税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078（882）9305 FAX078（801）0006

日本よ、蘇れ 日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機……。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本国始め 饒速日大神の東遷
『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円+税）
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して總向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
大野七三 著
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
私の生命（いのち）の復活
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円+税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
四六判158頁 定価1,365円（税込）
斎藤 齋靈 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分、〝こんな苦しみ〟は自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺2-17-14
TEL042（751）2558 FAX042（754）1818

山喜房佛書林
補陀洛信仰の研究
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
弘法大師聖句集成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554